

## 日本体育・スポーツ・健康学会 若手の会 第5回セミナー 開催要項

**テーマ** : 体育・スポーツ・健康科学分野における女性研究者の活躍推進に向けて

**開催日時** : 2025年3月14日(金) 13:00~16:00

**会場** : 奈良女子大学 文学系N棟 202

**方式** : 対面中心 (ZOOM配信のハイブリッド形式)

**主催** : 日本体育・スポーツ・健康学会 若手研究者委員会

**共催** : 日本体育・スポーツ・健康学会 ダイバーシティ委員会

**後援** : 奈良女子大学

### 開催趣旨:

ジェンダー平等の実現が希求されるようになって久しい。しかし、世界経済フォーラムの発表するジェンダー・ギャップ指数ランキングにおいて、日本の順位は146か国中118位(2024年)となっており、極めて低い位置にある。この問題は、学術分野においても例外ではなく、総務省によれば日本の研究者数は、男性が82万600人(81.7%)、女性が18万3,300人(18.3%)となっており、女性研究者の比率は極めて低い状況にある(2023年時点)。さらに、日本体育・スポーツ・健康学会の会員(名誉会員を除く)は、男性4,085人(77.2%)、女性1,206人(22.8%)であり、体育・スポーツ・健康科学分野においても、女性研究者の比率が低いことが見てとれる(2024年4月時点)。

他方、本学会の政策検討・諮問委員会「若手研究者育成」小委員会の調査報告(2015年)では、研究テーマについてジェンダーによる差が存在していることから、女性研究者の参画によって、より幅広い研究テーマや問題領域をカバーできるようになることが指摘されている。今後の体育・スポーツ・健康科学分野の研究における多様性の確保やイノベーションの創出のためにも、女性研究者の参画は喫緊の課題である。しかし、同調査における女性研究者の悩みや不安・不満についての回答からは、女性研究者をめぐる環境の厳しさが指摘されており、女性研究者の参画に関する障壁の存在が推察される。

以上のような状況に鑑み、本セミナーでは、体育・スポーツ・健康科学分野における女性研究者の活躍推進について取り上げることとした。また、その際、本セミナーが強調したいことは、このような問題を女性研究者個人の問題として矮小化すべきではないということである。女性研究者が増加しない理由を本学会、ひいては日本の学術界や体育・スポーツ・健康分野における構造的な問題として捉える視点が必要なのである。

本セミナーでは、体育・スポーツ・健康科学分野における女性研究者をめぐる現状と課題を共有し、学会としてのアクションについて「ジェンダー主流化」の視点から検討したい。それと同時に、本分野において活躍する女性研究者のキャリア形成についてご講演いただき、参加者が自身のキャリアについて将来展望を深めたり、指導教員としての気づきを得たりするなど、研究者同士が交流する機会としたい。

**シンポジスト：**高峰 修（明治大学/本学会ダイバーシティ委員会委員長）  
足立 名津美（京都先端科学大学）  
木伏 紅緒（神戸大学）  
宮尾 夏姫（奈良教育大学）

**指定討論者：**來田 享子（中京大学/本学会会長）

**コーディネーター：**大高 千明（奈良女子大学/本学会若手研究者委員会副委員長）  
黒須 朱莉（びわこ成蹊スポーツ大学/本学会若手研究者委員会委員）

**スケジュール：**

第1部

13：00～13：10 開会挨拶、趣旨説明

13：10～14：30 シンポジスト講演

14：30～15：00 ディスカッション

15：00～15：20 質疑応答

第2部

15：30～16：00 グループディスカッション

16：00 閉会挨拶

**情報交換会：**セミナー終了後、学内にて開催します。

**託児所：**奈良女子大学男女共同参画推進機構のイベント託児システム（ならっこイベント）を利用できます。託児に係る経費は若手研究者委員会が負担します。詳細は、利用検討の意志を確認した後、個別にご連絡いたします。  
（託児所の協力：奈良女子大学ダイバーシティ研究環境支援本部）

**申込方法：**下記のフォームより 2025年3月12日（水）までにお申込みください（託児所のご利用を希望される方は、2025年1月31日（金）までにお申込みください）。  
<https://forms.office.com/r/jceUbqQKwb>



お問い合わせ先  
日本体育・スポーツ・健康学会 若手研究者委員会  
taiikugakkaiwakate@gmail.com